

特集 症状からつかむ私の治療指針

——第 27 卷 第 11 号——

本号は「症状からつかむ私の治療指針」を企画してみた。

日常診療上、実際にわれわれは、患者の訴え、つまり症状をきいて、これに対し診断を下し、治療方針をきめ、治療にあたっているというのがふつうである。

その点、症状からみて治療方針をきめるまでの判断が最も大切なことだといえる。

産婦人科診療上、症状にも多くの項目があげられるわけだが、ここではそのうち、婦人科の面より 30、産科の面より 26、新生児の面より 9 の項目をえらんでみた。これらの中には、もちろんはつきりわかることのできないものも含まれている。

それぞれの項目については、

1. その症状からみて考えられる疾患
2. 鑑別の要点
3. 緊急処置
4. 根治的治療方法の適用と決定
5. 治療の実際について

について、あげるものはあげてもらい、述べていただいている。ハンデいで読みやすいことを基本方針としたつもりである。

実際の豊富な経験をもつ方がたの「私の治療方針」であるだけに、自分はいこうやるのが一番よいと思うという自信をもった方針が述べられていることが特色かと思われる。

この点、従来からよくみられている、治療法には、このような方法もあり、このような方法もあるといった内容のものとは趣きを異にしているわけである。また、「年刊—今日の治療指針」とも、項目が多く、範囲が広い点でちがった特色がでていいると思われる。しかし、それぞれ「私の治療指針」といつてみても、おそらく「皆の治療指針」にも当然つながるものと思われる。

これにより日常診療上、役立つことの多いことを期待したいものである。

<編集委員> 坂 元 正 一・橋 口 精 範・鈴 木 秋 悦